

12. ブラジル・メキシコにおける韓国・台湾の電子産業

中南米では1990年代に経済状況が活況を取り戻したことを反映して、海外からの直接投資が増加している。これに関連して注目される動きとして、東アジア企業が中南米で事業展開に乗り出してきたことがあげられる。その主要な分野は日本企業が強い競争力を維持してきた電子産業である。特に、韓国と台湾の企業が中南米市場の開拓に着々と成果を上げている。メキシコではNAFTA（北米自由貿易協定）域内と中南米への輸出拠点を築くための企業進出が、相次いでいる。一方、ブラジルではメルコスール（南米南部共同市場）における拠点市場の将来性に期待を寄せる企業進出が増加している。

本調査ではメキシコ、ブラジルにおける電子産業分野の韓国と台湾の企業の動向に焦点を絞った。なお、ブラジルでは未だ本格化していない韓国の自動車関係企業の動向にも触れている。現状は日本企業の競争力が全般的に優位に立っていることが調査結果に示されている。しかし、韓国や台湾に加えて中国も中南米市場を重視するようになっており、今後もその動向を把握する必要がある。サンパウロとメキシコシティで関係者とのインタビューからも、東アジア企業の積極的な事業展開への取り組みがうかがえた。